



議会だより

かたしな

No. 126 平成22年 11月18日発行



PHOTO

みのりの秋 わくわく体験郷での収穫作業

主な内容

平成21年度決算認定・監査委員審査意見・平成21年度補正予算…	2～3
9月定例議会で決めたこと	4～5
村政を問う 4名が一般質問	6～8
交流会・研修会	9
委員会行政視察	10～11
議会活動日誌・編集後記	12

9月定例会

村議会は、9月7日から17日までの会期で第5回定例会を開催しました。21年度決算、22年度補正予算、人事、村長と議員の報酬削減などを審議し、議決しました。

平成21年度決算を認定 財政はより健全に 貯金は11億円超

一般会計

歳入 40億7822万円
歳出 38億2415万円

翌年度繰越額 2億5407万円 (内、1億円を貯金へ)

年度末借金残高 28億6688万円
(前年比1109万円減)

年度末貯金残高 11億6176万円
(前年比1億8743万円増)

年度別決算状況表

(単位：千円)

区分		19年度	20年度	21年度
歳入	決算額	4,416,933	3,859,853	4,078,229
	前年比	121.6%	87.4%	105.7%
歳出	決算額	4,228,531	3,696,957	3,824,156
	前年比	119.8%	87.4%	103.4%

特別会計

(単位：千円)

会計名	歳入決算額	内、一般会計から 繰入・補助	歳出決算額	翌年度繰越額	基金繰入額
老人保健	55,583	0	31,280	24,303	0
簡易水道事業	133,276	51,200	126,725	6,551	0
介護保険	375,682	55,398	364,063	11,619	0
下水道事業等	141,574	115,210	140,578	996	0
後期高齢者医療	44,708	19,604	44,132	576	0
合計	1,612,645	314,536	1,527,948	64,697	20,000

観光施設事業	収入	内、一般会計からの 補助金	支出	利益	利益剰余金へ
資本的収入・支出	20,000	20,000	88,054	0	0

*資本的収入・支出は他会計借入金、企業債の償還のためで、支出の不足分を留保資金より68,054千円補填した。

監査委員の審査意見

- 財政の健全化比率は昨年度より、わずかに減少し良好で健全な財政である。
- 財政の厳しい中、道路整備等村づくりの基礎となる事業の推進、下水道等生活基盤の整備など、村民の福祉向上に貢献した。
- 村税、公共料金は村を支える礎であり、滞納、収入未済額を許すことは地域住民間に不公平を黙認する結果となる。
毅然とした厳しい対処により、住民間の公平と財源の確保に努めて欲しい。

【財政の健全化判断比率等の報告】

(単位：%)

	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債比率	将来負担比率
H21年度	-(赤字0)	-(赤字0)	10.5	27.2
H20年度	-(赤字0)	-(赤字0)	11.5	39.8
早期健全化基準	15	20	25	350

*1つでも健全化基準値を超えると、自主的に財政健全化を図る早期健全化団体に指定される。

平成22年度9月補正

3ワクチン(子宮頸ガン・肺炎球菌・ヒブワクチン)の全額助成を可決

(単位：千円)

会計名	歳入歳出補正前	補正額	補正後
一般会計	3,221,504	126,152	3,347,656
国民健康保険	825,640	19,091	844,731
老人保健	562	23,802	24,364
簡易水道事業	84,550	5,550	90,100
介護保険	357,788	6,830	364,618
下水道事業等	137,307	△896	136,411
後期高齢者医療	46,518	75	46,593

主な一般会計補正

歳入

- ・地方交付税 3,378万円
- ・前年度繰越金 4,478万円
- ・雑入(土出公民館移設補償料他) 2,372万円
- ・村債(過疎債 土出公民館新築工事関係) 4,400万円

歳出

- ・予防接種事業(子宮頸がん・肺炎球菌・ヒブワクチン)
- ・土出公民館新築工事・新井消防詰所新築工事
- ・尾瀬大橋下公園整備事業
- ・寄居山温泉センター機械設備改修工事



完成間近の尾瀬大橋下公園

請願陳情審査結果一覧表

9月定例会

条例の制定・一部改正

◎村税条例の改正

地方税法の改正に伴う改正です。主なものとして村タバコ税の税率改正が含まれています。

◎常勤特別職の給与に関する条例の改正

村長の給与を22年10月から月額57万5千円から54万4千円に改める。

◎議員報酬の特例に関する条例の制定

趣旨説明（吉野勲議員 定数・報酬特別委員会委員長）
議員定数と報酬については、議員全員で構成する特別委員会で開催してきました。
当初は、改正案を添えて、特別職報酬等審議会に村長に諮問依頼

◎常勤特別職の給与に関する条例の改正

しましたが、審議会から答申が得られなかったため、9月9日に公開で特別委員会を開催し、本会議に提案する案を決定しました。

定数については、増員・現状維持・削減の意見がありましたが、現状維持が過半数を占めました。

報酬については、減額が賛成多数で決定されましたが、期限付きで行うかどうかで賛否同数となり、委員長の採決権行使により期限付きで行うことを決めました。

提案は次の通りです。報酬額は、月額議長22万3千円、副議長18万円、常任委員長と議会運営委員長17万1千円、議員16万2千円とし、期間は平成22年10月1日から23年4月29日までとする。
(全員賛成)

計画の策定

◆過疎地域自立促進計画の策定

過疎地域自立促進特別措置法に基づき策定するものです。
(全員賛成)

人事

◆固定資産評価委員の選任

千明貞夫氏の任期が9月30日に満了しますが、同氏に引き続きお願いするものです。
(全員賛成)

こんな質疑・討論をしました

①一般会計決算について

問（大竹文夫議員）

議会運営費の中の経済組合負担金について、これは議員年金のうちの村側の負担金ですが、内訳はどうなっていますか。

答（議会事務局長）

内訳は、事務費が1万5千円掛ける14名で

21万、残り48万4千円が村からの負担金です。

問（大竹文夫議員）

議員年金については、破綻するのは時間の問題だ、この年金は議員の特権ではないか、との指摘もあります。

月負担金は私が2万8千円、村が2万9千



掘削中の権坂トンネル視察

円となっております。

今後どうするのかの検討は行われているのですか。

答（議会事務局長）

今年1月に地方議員年金制度検討会の報告が出ています。

確かに破綻状況で、

平成23年度にはわずかに不足が出るため、昨年のアンケートをもとに検討している模様です。

問（星野育雄議員）

村税の滞納率が昨年度より高くなっています。今後どのような対策を取っていくのですか。

答（住民課長）

昨年より3.6%増えています。専門徴収員を採用して村外・県外へと徴収を進めています。困難な事務は県税事務所と合同で対応しています。

機会を捉えて納税交渉も進めています。

【一般会計補正予算について】

問（大竹文夫議員）

中学校管理費の事業委託料が、入口の道路整備・危険防止のための調査・測量で315万円計上されています。どんな危険性があるのか、緊急性はどうなのか、

工事費はどのくらいかかるのか、予算確保の見通しはどうなっていますか。

答（教育長）

生徒の安全対策のためのバス停から校舎までの歩道設置を計画しています。

ここは村道・公衆用道路ですので、バス停から歩いたり、自転車

通学する子供の危険防止です。

また中学校周辺は生徒たちが走ったり、ローリースキーでトレーニングをしています。

周辺全部に歩道がほしいのですが、危険性の高い結婚の森周辺に歩道を設置する計画です。歩道が約400メートルで、数千万円掛かる見込みです。

財源は見通しがたっていないませんが、臨時交付金や過疎債などで対応ができれば、という段階です。

併せて行事などの際、路上駐車が目立つのでできれば駐車場の整備も計画しています。

問（大竹文夫議員）

安全のための周辺整備としてはその通りです。

村の小学校を統合して中学校の場所に持つてくるしかないのでは、というのが今の村民の率直な気持ちだと思います。

ます。

これからの村の教育の問題とこの事業が混同されることのないようお願いします。

【常勤特別職の給与に関する条例の改正について】

問（高橋正治議員）

提案は群馬県で一番低い額になります。課題山積の今、村を導く長として、県の町村長の平均に値する給与は必要ではないか。

答（村長）

村の貯金は、2億から1億を超えましたが、国の財政状況からして更に財政基盤確立が必要で、村長が率先して低負担・高福祉を目指したい。

問（大竹文夫議員）

現在、日本経済はデフレスパイラルに陥っています。その中でこのような提案をするこ

とは政治や行政の分野にもディスカウント競争を持ち込むことになるのではないかと。

村長の決意は認めるとしても、村長の意に反して負の影響が出るのではないのでしょうか。

答（村長）

開業に下げるのではなく、県下の35市町村とりわけ利根沼田広域圏での信頼関係が大事です。

議員の取り組みをみて、私も判断しました。

反対討論

（大竹文夫議員）

質疑でも述べたとおりこの提案は負の影響が大きいと考えます。選挙時での状況に因りわれ過ぎです。議員の取り組みからしても再検討を求めます。

賛成討論

（飯塚美明議員）

行財政改革が成果を挙げたとはいえ、将来展望は厳しい状況です。村民や職員に対しても大変意義あるものです。

村政を問う

4名が一般質問

笠原 耕作議員



交流会スキー教室

- ◆ 少子化への学校教育の対応は
- ◆ 村にスキーのできない子供がいるが

教育長 教育基本計画に審議会の設置を

村長 子供への期待が多様化している

問 少子化の中での学校教育への対応はどうなっていますか。

銚子との交流会で地元でスキーのできない子供がいます。学校でスキーの時間を増やすことはできませんか。

答 (教育長)

来年度以降の小学校入学予定者は20から30人台です。学級の人数には適正な規模があると考えています。

教育振興基本計画の中で方向性を出すための審議会の設置を明記する予定です。

現状はスキーの時間が4〜12時間、クロスカントリーが11〜17時間です。スキーができないといっても明神小と片品では意味合いが異なると思います。各学校の方針を尊重しつつ指導をしていきたい。

答 (村長)

来年度には審議会の発足させ、検討していただきます。

保護者の子供への期待が多様化しています。スキーだけが交流の手段ではありません。各家庭での交流で交流会の目的は達成できるものと考えます。

問 小中一貫教育が全国で広がりを見せる中で、片品でも検討する時期ではないでしょうか。

答 (村長)

大いに検討する価値のある施策です。どのような教育環境がよいか検証しつつ方向を見いだしたい。

答 (教育長)

通学バス、教育課程、校舎のあり方などさまざまな課題を検証し、子供たちが大きく成長できるように進めていきます。

星野 千里議員



◆ 第3次総合計画の現状は

◆ 農協旅行センターの存続を

村長 おおむね達成されている

村長 強い関心と情報収集を



農業体験後の農家民宿での様子

問 第3次総合計画について、どの項目を重点に実施していますか。進行状況はどうですか。成果が上がった項目は何ですか。

村にとって農業が基本であり、農業観光振興にとって農協旅行センターは重要な役割を担っています。

今後の存続について、村長はどう考えていますか。

また役場、商工会等を含め関係者をもうらした連絡会議をつくり連携していくことが重要だと思いますが、

答 (村長)

どの項目も重要で、状況としてはおおむね達成されていると考えています。

行財政改革では職員数の大幅削減と課の統廃合、指定管理者制度導入で財政力を強化しました。豊かな自然を活用した尾瀬国立公園の実現や名水百選への

指定、補助金や交付金を利用した光ファイバーや尾瀬大橋公園、橋梁工事、椎坂トンネルも着工できました。

保健福祉ではワクチン接種助成や出産祝金、中学生の医療費無料化、教育では体育館の耐震化と改修、などです。

農協旅行センターは大きな役割を果たしています。今後も強い関心を持ち、情報収集を行っていききたい。

経済低迷の中では関係者が連携することが大切です。最善の対応をしていきたい。

問

雇用と若者の定住をすすめ、住んで良かった、訪れて良かった村にするために、今後の方向は。

答 (村長)

職場づくりの取り組みや企業誘致に力を入れていきます。

星野 侃三 議員



◆高齢者がどう農業を続けていくのか

村長 耕作しやすい作物やボランティアの利用を

問 高齢化に向かっていく片品の農業についてどう考えていますか。

答 (村長)

高齢化については耕作放棄地や鳥獣害の問題をあわせて考える必要があります。

高齢者の農業推進には労力負担の軽いものが適しています。花木や大白大豆・花豆の栽培を推進していきたい。作業ボランティア制

度の利用も検討すべきです。

農業を続けることができない場合は農地の貸し借りの斡旋を利用していただきたい。

問 高齢者がどういうふうな農業をしていけばいいのかを開きたい

のです。

答 (村長)

高齢者が耕作しやすい作物の推進に努めます。

問 農業従事者はどれくらいか、10年後にどうなるのか。数字でわかりますか。

答 (農林建設課長)

農家の総人口は1,994人、うち農業に実際従事しているのは463人です。

10年後には1,200人、420人になると予想されます。

問 荒れていく農地をどう指導するのですか。

答 (村長)

貸し借りについては進められますが、地主と農家の問題もありここでは説明できません。

問 高齢者には少量多品目と多量少品目のどちらをすすめるのですか。

答 (村長)

軽労働でも収入が得られる作物を進めるということです。



低労力でできる花卉栽培(アジサイ)

答 (農林建設課長)

資金の支援は近代化資金と観光農業推進資金への利子補給です。県では無利子で就農支援資金を貸し出しています。

事業の支援はパイプハウスや土壌消毒機などの機械類の支援です。事業主体を農協にして農協からリースする方法もあります。

そのほか稲作の個別所得補償、中山間地域直接払い、農地・水・環境向上対策事業があります。

問 第3次総合計画の農業についてはどう実行していくのですか。

答 (農林建設課長)

計画としては、振興地域整備計画と経営基盤強化の二本立てになっています。事業としては種々行っています。農作業の受委託、農道整備、直売所については実施されています。

星野 育雄 議員



◆ 塗川橋架け換えを

◆ 未登記公共用地の非課税を

村長 今年度に予備設計を

村長 分筆登記と測量図が必要

問 次の点について聞きたい。

- 1、塗川橋架け換え工事の進捗状況。
- 2、摺割地区での有害鳥獣進入防止柵建設の予定。
- 3、特別養護施設建設に向けた高齢者保健計画の策定

4、村に寄付された未登記物件で、現に公共のために使用している土地に固定資産税を課税しているのか。今後提供される土地について登記事実にかかわらず非課税にできるか。



重量制限されている塗川橋

答 (村長)

塗川橋については、今年度になって用地の承諾を得ることができ、ルートを地元と協議するところです。年度内に予備設計をしたいと考えています。

鳥獣害防止柵については、現に実施している地区から進めます。

二区については県とも協議し、国の事業も含め検討したい。

介護施設については、村では第4期介護保健計画を立て、居宅・通所介護・リハビリ・短期入所などを進めています。施設の整備は事業所の具体的計画がないと困難です。村内事

業関係者と協議を重ねることが必要です。未登記の公共用地については、根拠が明らか場合は非課税にできません。そのためには分筆登記と測量図が必要となります。

それら以外は登記地目で課税せざるを得ません。

問 村内にもう一つ特別養護老人ホームが必要では。

答 (保健福祉課長)

現在計画はありません。村内事業者との検討が必要です。

問 公共用地に課税している場合はただちに非課税にすべきでは、測量図と相続人の代表者の承諾で処理できるのでは。

答 (住民課長)

現に苦情もあります。正当な根拠が確認できてから非課税としています。今後も機会をみて検討します。

こんな交流会と研修会を行いました

*日光市議会の交流会



白根山天空の湯にて

役場2階会議室で3回目となる交流会を行いました。

8月19日、日光市の議員が来村し冬期間閉鎖されている国道120号線の金精峠閉鎖期間の短縮等を中心に協議を行いました。

観光に依存の大きい両市村とも、経済衰退

については深刻であり、閉鎖期間を少しでも少なくするため今後とも協力していくことと、サル、シカ等についての食害対策について意見交換をしました。

その後、白根山天空の湯にて、交流を深めました。

*檜枝岐村議会との交流会

8月23日檜枝岐村議会との交流会が行われ、国道401号線の整備促進についてと観光の振興対策についての協議を行いました。

両議題とも両村にとり共通の課題であり今後とも、より一層の連携を深めつつ努力をしていきたいと思います。熱心に議論が交わされました。



檜枝岐村議会との交流会

*平成22年度利根郡議会議員研修会

10月21日から22日の2日間、利根郡の議会議員が「尾瀬岩鞍リゾートホテル」に集い、来年7月から9月に開催される大型観光キャンペーン「群馬ディスプレイネーションキャンペーン」について、「町村議会議員の選挙」について、県庁職員の話を受けました。

「地域おこし」を願う



利根郡議会議員研修会

各町村、また、来年の統一選挙を迎える町村等について大変参考となる研修会でした。

*町村議会議員研修会

10月28日吉岡町文化センターで、群馬県町村議会議員研修会が開かれました。

東京大学名誉教授、大森彌(わたる)氏から「地域主権改革とこれからの町村」について、共同通信社特別編集委員 西川孝純(たかすみ)氏より「菅政権と政治の行方」につ

いての講演でありました。

地域の活性化は、今まさに喫緊の課題であり、地方を発展させるには議会議員の担う役割は非常に重いので、常に研鑽につとめることが大切であるとの内容の濃い研修会でした。



群馬県町村議会議員研修会

報 告

観光産業常任委員会

■視察の期日

平成22年9月28日～
9月30日

■視察の場所

大分県日田市（大山町農協・木の花ガルトン・鯛生小水力発電所）
大分県臼杵市（し尿前処理施設）

■視察の目的

- ① 農産物直売システム及び付随する各種売店機能有機無農薬農業を推進する経営理念
- ② 小水力発電施設（水利権、建設費用）
- ③ し尿前処理施設（建設手続き、建設費用）

■視察の概要

① 大山町農協は、昭和24年誕生し、豊かで活力ある農村づくりを励む等の5つの運営理念のもとに、昭和36年耕種に恵まれぬ山村の宿命として、土地収益性を追求した耕種農業から「梅栗植えてハワイへ行こう」のキャッチフレーズを掲げ、果樹



木の花ガルトン直売所

農業・高次元農業へと転換を図ってきました。

また、昭和40年、豊かな人づくり運動、昭和44年には、住みよい環境づくりとして農家所得の向上発展に力を入れていた農協です。

木の花ガルトンは、平成2年農産物直売所とレストランを併設した大山店がオープンし、平成20年度までに、別府市・福岡市に計8店舗となり、年間購買客240万人、販売額16億円の実績を上げています。最初は出荷農家50人から始まった農産物直売所が、20年間で3千人に成長しています。

大山町農協では、大山の農地を力強い土地にするため、長期計画を実行し、隠れた投資をつづけて、30年間製造しつづけてきた有機堆肥「養土源」を進化させ、

健康な土と元気に満ちた農産物をつくりつけています。

② 日田市（旧中津江村）に位置する、鯛生小水力発電所は、「山村地域環境保全機能向上実験モデル事業」の一環として、豊かな水資源を生かした自然にやさしい水力発電所として、平成13年度から15年度にかけて設置したものです。

既存のダムを効果的に利用し、電力は、鯛生金山観光施設等に供給し、自前の電気として有効に活用されている。発電方式は、流れ込み式、最大出力60kwです。

③ 臼杵市は、人口41,336人、世帯数15,732戸、下水道普及率49.7%接続率85%の市です。以前はし尿を離島に運び処理をし、年間1億2千万円の費用を要しており、この施設が25年間経て老朽化したため、既設の下水道処理場を利用した「し尿等前処理施設」の建設に取り組み、国、県と4年間協議を重ね、平成17年、10年間限定の承認を得、事業費5億3千万円で建設したも

のであります。なお、この施設は、公共下水道未接続の家庭等から発生するし尿及び浄化槽汚泥等を収集し、下水処理場で処理するため、前処理、貯留するための施設であり、貯留したし尿については、下水処理場へポンプにて移送し、16倍に希釈後、水処理施設へ投入しています。



臼杵市役所で前処理施設についての説明

■視察の結果

① 大山町の農業は、少量生産多品目栽培、高付加価値販売という収益率の高い農業を求めている。ため、生産、加工、流通、サービスといった新システムを模索しながら、夢と希望と活力のある都市と農村の共生社会を創る

ため、農協と農家が一体となって、元気な農村づくりを常に励んでいる姿は片品村にとり大いに参考となります。

② 鯛生小水力発電所は、農林水産省の補助を受け、既存のダム、林道等を効果的に利用している。環境重視が強まる今日、水利権確保や適地選定、採算等の課題もあるが、自然に恵まれていて片品村にも導入の研究をすることが必要です。

③ 臼杵市の前処理施設は、昭和47年に厚生省（現厚生労働省）・建設省（現国土交通省）より都道府県知事に出した通達に基づき協議を重ね、約4年間の交渉の結果承認を得て建設されたものです。また、以前臼杵市に視察に来た神奈川県伊勢原市では、平成21年に「し尿等希釈投入施設」が完成しています。

片品村では現在、下水道未整備地域のし尿処理対策については、今後大きな課題であるので、以上の事例を参考として実施に向けた研究協議を進めるべきです。

観光産業常任委員長

（高橋 正治）

行政視

総務文教常任委員会

■視察の期日

平成22年9月29日、
10月1日

■視察の場所

岡山県新庄村及び
奈義町

■視察の目的

〔新庄村〕 農業振興策

- ① いきいき婦農塾の取
り組み
- ② 農作業の受委託シス
テム
- ③ 加工農産物のブラン
ド化

〔奈義町〕 花房町長の町づくり

- ① 行財政の取り組み
- ② 子育て、高齢者対策
- ③ 職員の地域担当制
など

■視察の概要

新庄村は、岡山県の西
北端、鳥取県との県境に
位置し、人口1,101
人、総面積67㎏余りで、
その大半が林野です。



新庄村がいせん桜通り

そのような中で稲作の
80%程をヒメノモチとい
うモチ米の作付けや、婦
農者対象に、いきいき婦
農塾の開催、ヒメノモチ
のブランド化、サルナシ
【片品では、シラクチと
言っている】の栽培、加
工、販売までを取り組み、
活力ある村づくりを行っ
ています。

奈義町では、町長自
ら「小さいからこそ輝
く町づくり」を副題に
掲げてキメ細やかな施
策をスピードある判断
をもって、町づくりに
取り組み、予算は、健
康な町づくりのための
もので、福祉が最優先
されるべきとの取り組
みを行っている自治体
です。

■視察の結果

新庄村では、新規就
農者への婦農塾の開催
や、高齢化が進む中で
の生産体制維持を図る
ため、農作業の受委託
システムの組織づくり、
加工農産物のブランド
化への取り組みなど、
生産から販売までの体
制づくりが、小規模自
治体ならではの、全村
一丸となって行ってい
ます。特にヒメノモチ
の生産から流通までの
体制づくりなど当村に
おいても是非取り入れ
ていければと思います。

奈義町では、町長自
ら対応していただき、
熱く町づくりを語って
もらいました。優しさ
と、思いやりの町づく
りが、スローガンで、
そのため予算は福祉施
策が最優先されること
ことでの行政運営を行
っています。

取り組みの中で行政
経費の見直し、特別
職給与の縮減や、黒塗
り庁用車の廃止、特養
施設のベッドの増床計
画、少子高齢化対策、
職員の地域担当制など、



奈義町役場にて

県に先駆けての施策を
独自に行っています。
特に職員の地域担当制
など、住民との対話を
することで、行政と住
民のパイプ役を職員が
はたすことで、町長が
「町民目線でスピードを
もって施策の実行がで
きるのです」との考え
を拝聴し、今後当村が
自立していく上で目指
すべき町「村」づくり
を実行されていると強
く感じました。

総務文教常任委員長
(笠原耕作)

● 第6回
臨時議会

■平成22年10月21日

工甲請負契約の締結

契約の目的

除雪車格納庫建設工事

契約の方法

指名競争入札

契約金額

51,450,000円

契約の相手方

芝崎建設株式会社

議会活動日誌

8月

- 10 学校給食センター運営委員会
- " 村営観光施設事業運営委員会
- " 上下水道運営協議会
- " 国民健康保険 "
- " 介護保険 "
- " 議員定数・報酬特別委員会
- 14 村内各地区盆踊り
- 15 鎌田盆踊り
- " 群馬県戦没者追悼式
- 19 日光市議会との交流会
- 23 檜枝枝村議会との交流会
- 27 議会運営委員会
- " 全員協議会

9月

- 7 議会定例会
- " 決算説明
- 8 決算説明
- 9 議員定数・報酬特別委員会
- 11 小学校運動会
- 14 総務文教常任委員会
- " 観光産業常任委員会
- 17 片品中学校運動会
- " 議会定例会閉会
- 25 南保育園運動会
- 26 片品保育園運動会
- 28~30 観光産業行政視察 大分県
- 9/29~10/1 総務文教行政視察 岡山県
- 29 北保育園運動会

10月

- 3 全国育樹祭
- 5 敬老会
- 21 議会運営委員会
- " 臨時会
- 21~22 利根郡議員研修会
- 24 消防秋季点検
- 28 群馬県町村議員研修会

11月

- 7 道路愛護
- 8 議会広報研修会

お知らせ

次回定例会
12月7日(火)~14日(火)の予定です。
一般質問は、7日の予定です。

みなさんの傍聴を
お待ちしております。

問い合わせ
TEL 58-2119

議会だより・会議録がホームページで見られます。
URL: <http://www.vill.katashina.gunma.jp/>

編集後記

今年には農業が良かったという声が増えてきますが、皆さんいかがでしょうか？天候不順による野菜類の高騰は片品のもので有利にしました。米の作柄も良いようです。次は雪の心配をしなくてはなりません。

村の経済を、地に足の着いたものにするにはどうすればいいのかわかりません。

気候変動と生物多様性、高齢社会への対応。

私たちの五感を磨き澄ませてみたらどうでしょうか。

議会の中からもっともっと議論を投げかけていきたいと思っています。

【大竹 文夫記】

発行 片品村議会

発行責任者 入澤 登喜夫

編集委員

- ◎ 大竹 文夫
- 星野 千里
- 星野 完治
- 星野 長命
- 吉野 正治
- 高橋 正治
- 入澤 登喜夫

印刷所

等原印刷有限公司